

2023年2月19日

年間第7主日

菊地功大司教 メッセージ

マタイ福音は山上の垂訓からの続きの部分で、敵に対する愛について述べるイエスの説教を記しています。「誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をもむけなさい」ということばは、よく知られていると同時に、あまりにも現実離れした考え方であると感じられる言葉でもあります。

しかしそれは、「隣人を愛し、敵を憎め」という掟と同様、「目には目を、歯には歯を」という人間の常識から当たり前の掟を否定することばであり、その理由は、「正しい者にも正しくない者にも」太陽を昇らせ雨を降らせてくださる天の父、いのちの与え主である「天の父の子」になるためだとイエスは語ります。

教皇フランシスコはこの箇所を、「キリスト教的な「変革」をもっともよく表す箇所の一つ」と指摘し、「真の正義への道をわたしたちに示」すことばであると述べています(2017年2月19日一般謁見)。

教皇様は、「イエスは悪を辛抱するのではなく、それに対して行動するよう弟子たちに求めています。しかし悪に悪で返すのではなく、よい行いによって返すのです。これは、悪の連鎖を打ち破る唯一の方法です。この悪の連鎖が打ち破られると、ものごとは本当に変わり始めます」と述べて、わたしたちが善の欠如である悪の状態を改善するために、善を持ってその空白を満たす以外に道はないと積極的な行動を呼びかけます。

同時に教皇は、単に暴力を我慢することが求められているのではなく、正義を追求することを辞めてはならないとして、こう述べています。

「イエスは「正義」と「報復」をはっきり区別するよう、わたしたちに教えています。正義と報復を見分けるのです。報復が正しいことは決してありません。わたしたちは正義を求めることができます。正義を行うことは、わたしたちの責務です」

わたしたちはしばしば、神に成り代わっているかのように他者を裁き、排除し、時に悪の行為を返してしまいます。裁いたり罰を与えようとするわたしたちは、いったい何者なのでしょうか。神の正義を追求し、それが確立されることをめざす者は、悪によって生じた空白を善なる行いを持って満たすものでありたいと思います。